

平成30年度 マリア学院 市原マリア・インマクラダ幼稚園自己評価結果

1 本園の教育目標

神さまと周りの人たちから愛されていることに気づく(宗教教育)
幼稚園生活の体験を通して 自分自身が好きになる(モンテッソーリ教育)
集団生活の出会いと関わりを通して 神様と周りの人々を大切にする(平和教育)

2 本年度 重点的に取り組む目標・計画

- ・モンテッソーリ教育を土台として 子供一人ひとりへの援助を丁寧にする。
- ・防災、防犯ともに共通意識をもって取り組む
- ・家庭との連携をより深め、子供の成長への意識を高める

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 取組状況 |
|--------------|--|
| カトリックの幼稚園として | カトリック幼稚園の教師としての意識を高め 宗教教育を身近なものとしてきた。 |
| 幼稚園教諭として | 教師であることに誇りを持ち、生きがいを感じ積極的に保育に取り組んでいた。 |
| モンテッソーリ教育 | 子どもの自主性を信じ、子供を見守った。 子どもたちは 園全体を活動の場として 生き生きとした活動をしていた。 |
| 宗教教育 | 宗教的な体験が生活全体の中にあり、子どもたちの身近なものとなっている。 |
| 平和教育 | 自然を通して すべての生き物との共生を感じたり、友達同士のやさしさを持た募金活動を通して災害を受けた地域への思いやりを持つことが出来た |
| 安全管理 | 定期的に防災訓練を実施できた。 防犯に対する研修会を持った。 |
| 保健管理 | 子どもの健康状態を把握するために、家庭や職員間の連絡、報告を密にとった。 室内、室外の温度、湿度に意識を持った。 |
| 子育て支援 | 様々な分野の講師を呼び、講演会を開いた。 預かり保育の充実に向けて取り組んだ。 未就園児クラスへの 保護者の要望を受け止め、様々なクラスの開催とカウンセラー等による子育て相談等を実施した。 |
| 学校・地域との連携 | 小学校や老人ホームとの交流を積極的に行った。 園に関わる地域の方々へ 感謝の気持ちを伝える機会を大切にした。 保幼小一貫教育が定着し、小学校との交流が始まった。 |

4 園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・目標に向かっての話し合いや見直しが活発になり、職員の意思疎通がより細やかになった。
- ・小学校や中学校などとの交流を通して 地域にも関心が深まった。
- ・園の教育方針を様々な機会に家庭に伝えてきた。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|-------|---|
| 教育目標 | 教育目標をより具体的に意識できるような研修をする。 子供の援助の仕方を 園全体で共通したものとしていく。 |
| 子育て支援 | 保護者のニーズを把握しながら、園の教育方針に基づく子育て支援の道筋を模索する。 |
| 安全体制 | 保健、安全ともに 現代社会の状態を正確に知り、対策のさらなる見直し、確認を行う。 |

6 学校関係者の評価

保育内容評価について、学校関係者12名の意見を集約

- ・教育理念を指針とした保育が感じられる。
- ・保護者と幼稚園のコミュニケーションがうまくとれていて、幼稚園生活がよくわかった。
- ・ベテランの先生と新人の差を感じる。職員の指導体制しっかりしてほしい。
- ・職員の数の少なさから 余裕のなさを感じる。

7 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる